



本年も元気で安全就業を心からお祈りいたします

令和六年 新春号

理事長 濱口 一利
役職員一同

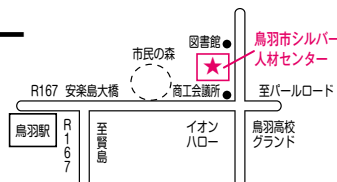
2024

編集発行



公益社団法人
鳥羽市シルバー人材センター

〒517-0022 鳥羽市大明東町1番6号
TEL 0599-25-7341 FAX 0599-25-1164
ホームページ <https://webc.sjc.ne.jp/toba>



新年のごあいさつ



公益社団法人
鳥羽市シルバー人材センター
理事長 濱口 一利



新年あけましておめでとうござい
ます。

会員の皆様にはご家族と共に、希
望に満ちた新春をお迎えのこととお
慶びを申し上げます。また、市民の
皆様、企業そして行政機関をはじめ
とした関係機関には、昨年のご厚情
を深く感謝をいたしますと共に新年
の祝詞を申し上げます。

さて、私は、昨年、理事に選任され、
定時総会において理事長に承認を頂
き、シルバー人材センターの運営に
関わる重責を担うこととなりました。
そして、新たな年を迎え、その思い
は一層強くなつてきています。

昨年、就任以来、現場の視察に出
たり、資料を調べたりしながら、鳥
羽市シルバー人材センターの現状把
握に努めました。市道、農道等の除
草作業と公園の管理、給食配送業務
など行政からの事業と個人からの除
草作業が主ですが、私が想像してい
た以上に鳥羽市のきれいなまちづく
りに貢献していることを知りました。

しかしながら、昨年の夏は異常な

暑さ厳しき日が続きましたが、現場
で見た光景は全身に汗して作業をし
ている会員の皆様の姿でした。高齢
者がお互いに助け合い、元気で働き地
域社会に貢献することは大切ですが、
酷暑の中での作業：働き方について
も改善ができないか、この暑い夏に
強く感じたところです。

また、当シルバー人材センターの
会員数は150〜160人ですが、
女性会員が少ないのが課題です。こ
れまでも取り組んできましたが、
女性会員増と女性会員の仕事増を進
めていきたい。今、市の観光商工課
と連携してその方策を検討し、観光
業の人手不足の解消の一助にと取り
組みを始めたところです。

今後も理事の皆様のお知恵を頂き
ながら鳥羽市シルバー人材センター
の運営と、存在感を高めていくこと
に努力していきたいと思ひます。

結びに皆様方のご健勝とご多幸を
心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶
といたします。



鳥羽市長
中村 欣一郎



新年あけましておめでとう
ございます。

シルバー人材センターの会員
の皆様におかれましては、日頃
より市政運営の推進に格別のご
理解とご支援を賜り、厚く御礼
申し上げます。併せて、関係の
皆様の多大なるご尽力のもと、
高齢者福祉の増進、地域社会の
活性化に大きな役割を果たされ
ておりますことに、深く敬意を
表示するとともに、心から感謝を
申し上げます。

昨年は、原油価格や物価の
高騰等への対応として各方面
へ支援策を実施しました。ま
た、4年ぶりに鳥羽みなとま
つりの開催等、地域の賑わい
づくりや経済の回復に努めて
まいりました。

人口減少により、地域の担
い手が減少する中、コロナ禍
を経て、あらゆる面で人手不
足が顕在化され、喫緊の課題
であることを強く感じており

ます。持続可能なまちづくり
として地域共生社会を実現し、
市内経済活動を維持していく
ためには、貴センターが担う
役割はますます重要であると
認識しております。これまで
以上に皆様のご活躍が欠かせ
ないものであり、今後とも、
豊かな経験や知識、技能を活
かし、地域共生社会の実現に
お力添えいただきますよう宜
しくお願い申し上げます。

鳥羽市としましても、「誰も
がキラめく鳥羽 海の恵みが
つなぐ鳥羽」をめざし、地域
の活性化や地域産業の振興を
図るとともに、高齢者の皆様
の就業機会の充実や雇用環境
の整備促進に、より一層注力
してまいります。

結びに、シルバー人材セン
ターの益々のご発展と、会員の
皆様のご健勝、ご多幸を心より
祈念いたしまして、新年のご挨拶
とさせていただきます。

2023年 主な開催行事

令和五年度「三重県シルバーの日」

十月二十五日（水）九時から十一時

○健康福祉センター「ひだまり」にて奉仕作業
施設周辺の草刈り・清掃、及び木の伐採等の参加者は、男女会員三十二名および役員五名の計三十七名でした。



○ショッピングプラザ・ハローにて会員募集の啓発活動

女性会員五名で実施し、鳥羽市民の方々に百枚の「案内書」を配布と声掛けをしました。



○救命入門・AED講習の実施
十三時三十分から十五時

鳥羽市消防本部から二名の講師を招いて講習会を実施し、参加者十一名が受講しました。



「TOBAひだまりフェスタ」に参加

コロナ禍以来、十一月十一日に開催されたフェスタに参加し、有意義な一日を過ごしました。

女性委員会が中心となり、会員作品の販売および会員勧誘の啓発活動にと励みました。また小作品の体験制作コーナーでは、一般市民の方々五十名余のご参加をいただきました。



2024年 辰年 年男 14名

84歳になる方（昭和15年生まれ） 1名

72歳になる方（昭和27年生まれ） 13名



2024年 辰年 年女 2名

84歳になる方（昭和15年生まれ） 1名

72歳になる方（昭和27年生まれ） 1名



五輪書



（島田美術館蔵。熊本県指定文化財）

「二刀流」について

昨年は、(MLBエンジェルス)大谷翔平投手・選手による「二刀流」の活躍で、終盤戦は負傷欠場にも拘わらず、日本人選手初の本塁打王をはじめ数多くの記録を残し、2021年に続いて2023年も大リーグ史上初の満票で2回目のMVP受賞となり、一昨年は英語の辞書にまで「Oranirule」（大谷ルール）という新語まで登場させてしまった。

では「二刀流」のルーツはどの時代まで遡ることができるのだろうか？ 世界レベルでは、古代ローマの剣闘士に二種類の武器をもって戦う戦士がいたとのことであるが、日本ではどうかであろうか？ 記録の残るところでは、南北朝時代の1318年から1368年頃までの約50年間を記した軍記物語『太平記』に登場する新田義貞が、両手に持った太刀で矢を次々と叩き落とす場面が描かれていることであろう。江戸時代初期になると、兵法書『五輪書』の著者であり、利き手に本差・反対側に脇差を持つて戦う剣術「二天一流」を流派とした宮本武蔵であろう。前書物によると武蔵13歳から29歳の間に60余の勝負に無敗であったと記載されている。現代の剣道では、成年者は二刀流を公式で使うことが認められているが、昭和初期から平成初期まで学生の二刀流を禁止していた。大学剣道で二刀流が解禁されたのは、平成4（1992）年になってからであった。試合では、基本的に小太刀で敵の攻撃を受け流し、太刀で打つ、という戦法を取る。真剣で戦う時代の宮本武蔵の心・技の強さを感じさせられる。（以上、会員投稿）

編集後記

2019年12月初旬に中国武漢市において新型コロナウイルス第1例目の感染者報告があった後、4年目の2023年5月8日から感染症法上の「5類感染症」に移行となりました。今後は個人の選択を尊重し、皆様の自主的な取組をベースとした対応に委ねられることになりました。

また本件に関しましては、新型コロナウイルスの mRNA（メッセンジャー・リボ核酸）ワクチンにつながる技術を開発した科学者2教授に2023年のノーベル生理学・医学賞が授与されました。

では2024年は、どんな年でしようか。今年の干支（十干と十二支）は、「甲辰（きのえ・たつ）」です。「辰」は十二支の中では唯一の架空の生き物、龍（竜）を意味し、水や海の神として祀られ、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するもので、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられ、「甲辰」には「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起のよさを表しているといえそうです。

2024年が皆様にとって、希望あふれる年になることを祈念いたします。（T・K）